

町は11月5日、「認知症の人にやさしいまちづくり やはば」を宣言しました。超高齢社会の現代において、認知症が特別なものではなく、当事者や周囲の人に限らず、全ての人が理解を進め、心を通わせ支え合うことが目的です。高橋町長が町えんじょいセンター前で宣言文を読み上げました。

認知症の人にやさしい まちづくり やはば 宣言

宣言文

認知症は特別なものではなく、多くの人になり得る病気です。

超高齢社会を迎えて、誰もが認知症の人を支え、あるいは認知症の当事者や家族として、認知症と共に歩む時代になりつつあります。認知症の人と接するときは、3つの「ない」を心がけ実践します。

～ 驚かせない 急がせない 自尊心を傷つけない～

私たちは、町民みんなが認知症を正しく理解し、3つの「ない」を心得ることで、認知症の人たちも、あるいは認知症になっても、誰もが住みなれたところで希望を持ち、人生の最期まで心豊かに、安心して暮らし続けることができるまちの実現を目指すことを決意します。

矢巾町は、私たちの道しるべとしている町民憲章に「和といたわりと希望の町」を掲げています。

その礎のもと、矢巾町は、町民みんなが、世代や立場を越えて認知症の人やご家族に和といたわりのある、温かい心の通った支え合いにより、認知症の人たちも希望を持ち続け、安心して気兼ねなく社会に参加することができる認知症の人にやさしいまちづくりに取り組むことをここに宣言します。

令和4年11月5日 矢巾町長 高橋昌造



宣言を行う高橋町長



チームオレンジやはば祭り えんじょいセンターで開催

新たな宣言を行った11月5日、町えんじょいセンターではチームオレンジ矢巾まつり（実行委員会主催）が行われました。

同センター内と施設周辺は、福祉施設などがブースを連ね、多くの来場者でにぎわいました。